平成２２年度研究成果報告書≪教育課程≫

学校名（ふりがな）	湯沢市立雄勝中学校（ゆざわしりつおがちちゅうがっこう）

校 長 名： 草 嶺 芳 哉

所 在 地： 秋田県湯沢市横堀字板橋５

電話番号： 0183-52-2375

新学習指導要領の趣旨を具体化するための指導方法等の工夫改善に関する研究	
研究対象教科等	特別活動

《研究主題》

認め合い，共に考え，主体的に活動する生徒の育成　～自発的，自治的に活動し，高まり合う集団づくりを通して～

【研究の要点】

本校は，県南地区の山間部に位置し，五つの小学校区からなる通学区は広範囲にわたるが，地域，家庭との連携を大切にした教育活動を推進している。

素直でやさしく，何事にも真面目に取り組む生徒が多い反面，現状の生活に流されやすく，自らの意志や判断で物事を進めようとする主体性や向上心に課題も見られる。このような生徒の実態から，集団活動を通した主体性や自主性の育成を目指し，上記の研究主題を設定した。

研究を進めていく上で，発達の段階に照らして身に付けさせたい力を明確にするために，生徒の実態把握を踏まえて「目指す生徒像」を設定し，指導に系統性と一貫性をもたせるようにした。

1年目の研究を経て，

・実践意欲を高め課題解決につなげるための学級活動を中心に据えた話合い活動の充実と工夫

・異年齢集団活動を生かした高まり合う集団の育成

・諸行事後のアンケート調査による集団と個の変容の見取りと事後指導

の3点を2年目の研究の核とした。

学級活動の充実に取り組んできた結果，生徒一人一人によりよい人間関係の土台が培われ，学校生活の基盤となる学級の諸活動の取組も向上してきた。また，縦割りの異年齢集団活動においては，多様な関わり合いを通して，リーダーシップやメンバーシップを体験的に学ぶ機会になった。その結果，生徒個々に意識の変容が生まれるとともに，集団としての高まりと，様々な活動への自発的，自治的な取組が見られるようになった。

事後のアンケート調査結果からは，生徒の変容を分析するための基礎データや事後指導につなげるための資料等が得られ，話合い活動の材料としても活用できることが分かった。

研究を貫く柱として話合い活動を特別活動の基軸に据え，学年学級の活動と学年の枠を超えた活動との関連付けを図ったことにより，集団としての自発的，自治的意識を高め，一定の成果につながったと考える。

Ⅰ　研究指定校の概要

１　学校・地域の特色及び実態

本校は，山形県と宮城県に隣接する湯沢市の最南東部，秋田県の南の玄関口に位置している。小野小町生誕の地として知られ，鮎釣りや渓流釣りで名高い役内川が校区の中央を流れ，豊かな田園地帯が広がっている。かつて日本一の隆盛を誇った院内銀山跡などの史跡や，秋ノ宮温泉郷などの温泉群などもあり，歴史と自然に恵まれた地区である。

２　学校の概要（平成22年4月5日現在）

	１年	２年	３年	特別支援学級	計
学級数	2	2	2	1	7
生徒数	65	68	64	2	199

教員数　19　名

Ⅱ　研究の内容及び成果等

１　研究主題等

(1) 研究主題

認め合い，共に考え，主体的に活動する生徒の育成　～自発的，自治的に活動し，高まり合う集団づくりを通して～

(2) 研究主題設定の理由

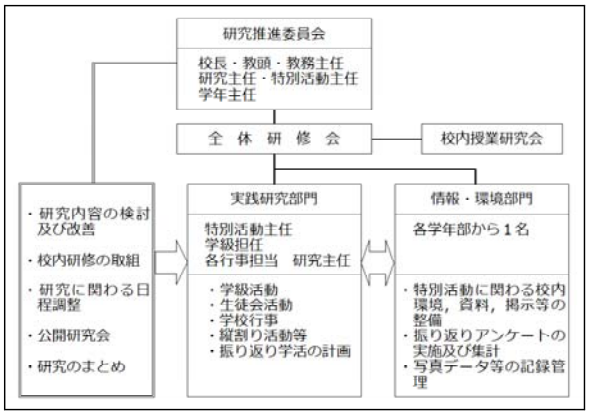
本校生徒の実態として，集団としてのまとまりや行動力は高まりつつあるものの，生徒個々に目を向けると，「人と好ましく関わる」

「自ら気付き，判断し行動する」など，「集団の一員として自己をよりよく生かす」という点で課題が残る。

新学習指導要領の特別活動では，よりよい人間関係を築く力や自治的能力の育成を目指して目標や内容が改訂されている。生徒の実態を踏まえ，学級活動や生徒会活動，学校行事等において多様な集団活動や体験的な活動を意図的に組み込み充実させることで他者との関わりを豊かにし，よりよい人間関係を築く力を磨いていく必要があると考えた。

また，これらの活動を通して集団の中での自己の生かし方を学び，自己有用感を味わう経験を積み重ねていく中で，主体的に考え，判断し，自主的に行動する生徒が育つのではないかと考え，本主題を設定した。

(3) 取組体制



１年目の取組体制で研究内容や分担が不明瞭だったり，ＰＤＣＡサイクルが機能しなかったりした部分については見直しと修正を加え，２年目は上図の取組体制で研究を進めた。

(4) ２年間の主な取組

平成21年度	(1) 研究体制の確立，研究推進スケジュールの策定 (2) 全体計画，年間指導計画の見直し，学習指導案の研究 (3) 学級活動の充実と授業実践 (4) 「振り返り学活」の実施 (5) 多様な関わり合いの場の工夫と支援の在り方 (6) 集団，個の変容を見る「振り返りアンケート」の実施とデータの蓄積
平成22年度	(1) 話合い活動を重視した学級活動の充実と「振り返り」学活の継続 (2) 縦割り活動のよさを生かした異年齢集団活動の充実 (3) アンケート調査等による集団，生徒個々の変容の分析及びデータの活用 (4) 研究のまとめ，及び研究成果の公開と発信

２　研究内容及び具体的な研究活動

(1) 各学年の「目指す生徒像」の設定

特別活動研究主題に照らし合わせ，生徒の姿について「よさ」や「課題」等の実態把握を行った。それらを踏まえ，発達の段階を考慮しながら，３年間を見通した「目指す生徒像」を設定し研究の全体構想に据えた。

○第１学年

「お互いのよさを認め合い，思いや願いを出し合いながら，協力的に関わり合うことができる生徒」

○第２学年

「お互いの個性や持ち味を発揮し，思いや気付きを伝え合いながら，積極的に関わり合うことができる生徒」

○第３学年

「お互いの存在を尊重し，多様な考えを練り合う中で，意欲的に関わり高め合うことができる生徒」

各学期末の学年部会では，「目指す生徒像」に照らし，生徒個々や学年・学級集団の変容と，今後の指導方針や手立てについて確認し合う時間を設定した。さらに，それらについて全教職員で共通理解を図り指導に当たるようにした。

(2) 特別活動全体計画及び年間指導計画

新学習指導要領を踏まえ，次の点について見直しと整備を行った。

【全体計画】

・各教科，道徳及び総合的な学習の時間との関連の他，生徒指導，教育相談等その他の教育活動との関連を図る。

・本校特別活動の重点目標，学級活動，生徒

会活動，学校行事の目標と具体的内容，設置する校内組織，時数，評価を記載する。

【年間指導計画】

・１年間の学級づくりを学期毎に「耕す」「伸びる」「実る」という三つのステップで捉え，段階的に指導していく。

・各教科，道徳及び総合的な学習の時間との関連，学校行事や生徒会活動との関連の他，生徒指導，教育相談等その他の教育活動との関連を図る。

・学級活動の３つの内容について「主たる内容」と「関連する内容」，17の活動項目との関連を記載する。

その上で，全体計画及び年間指導計画のどちらにも「各学年の目指す生徒像」を据えた。

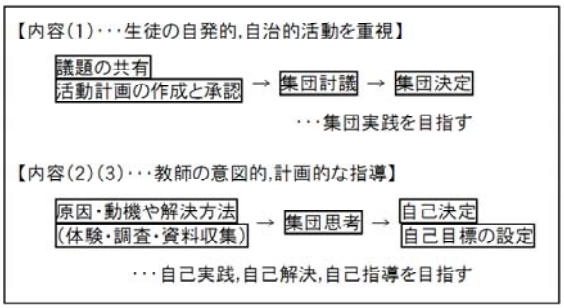
(3) 学級活動の充実

学校生活の基盤となる学級活動を充実させることで，身近な「関わり合い」を通してよりよい人間関係，集団の基礎が築かれると考え，学級活動の時間における話合い活動の充実に努めた。

① 学級活動の時間の捉え

「生徒の自主的，実践的な取組を促す時間」
↓
『一人一人が学級の一員であることを自覚し，提案事項に対する課題意識をもち，みんなの意見を重ね合うことを通して，よりよい生活や取組を目指す話合い』

② 各内容と指導過程の吟味



③ 本時の活動の吟味【特に内容（１）】

ア 導 入

↓議題及び提案理由の確認

↓提案理由と学級目標の関連についての共通認識

↓めあてと活動の流れの確認

イ 展 開（話合い）

↓意見を出し合う，考えを述べる

↓意見を重ねる，考えを深める

↓生み出す(折り合い)，焦点化・絞り込み

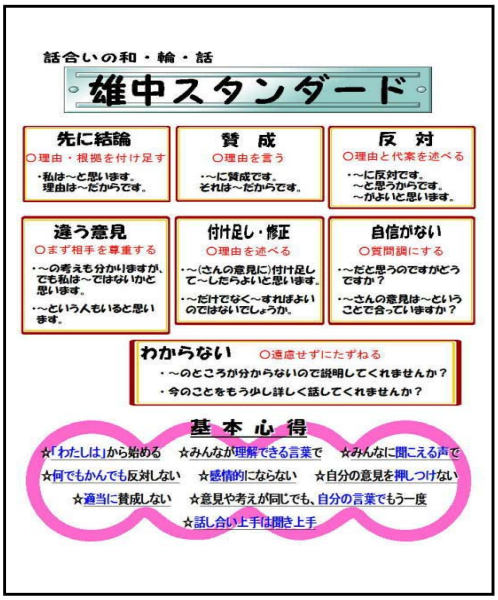
ウ まとめ

↓集団決定と確かめ（シェアリング）

個の振り返り（実践への意欲化）

(4) 話合い活動の充実

話合いの技能については，同一学年の生徒でも個人差が見られる。話合いの基本的なスキルを身に付け，活性化や質の向上を図るために，話し方や聞き方，進め方などについて基本話型を掲示した。また，グループ活動用の話合いカードを作成するなど，コミュニケーションスキルの向上を図った。



教室掲示 話型「雄中スタンダード」

また，集団討議や集団思考においては，話合いの質を高めるためのポイントとして，次の５点に留意し授業の構築に努めた。

ア 話し合うことの必要性を生徒が感じているか（議題に対して課題意識があるか）。

イ 生徒一人一人が，話合いに自分なりの考えや意見をもって参加しているか。内容(１)については，全員が納得できる着地点(折り

合い）を探す話合いになっているか。
ウ　話合いの形態は，話合いを深めることを意図したものになっているか。
エ　時間内に集団決定（自己決定）に結び付くように計画されているか。
オ　意欲の高まりにとどまらず，事後に具体的な実践場面が設定されているか。

特に，より話合いが深められるような形態について，授業実践を通してさまざまな試行を重ねてきた。実際の学級活動では，机を「コ」の字型にした基本的な話合いの形態よりも，全体での話合いと小グループでの意見交換など，複数回形態を変えることが多い。そのため，生徒の机をできるだけ使わないようにして速やかに話合いに入るようにした。

また，机を排することにより生まれる生徒同士の距離感や集中力が，話しやすい雰囲気をつくり出し，生徒の本音を引き出し，お互いに納得のいく結論を導き出すことにもつながった。

《授業の実際》

生徒司会による進行
プログラム委員からの提案

みんなで意見を出し合う

膝を突き合わせ，グループで考えを述べ合う

全員が黒板の前に集まり，出された意見を集約し絞り込む

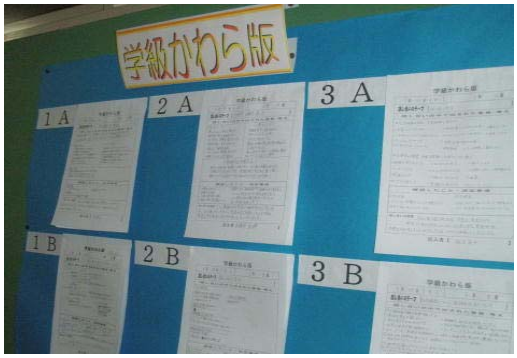
個の振り返り

椅子を机代わりにして
自分の考えをまとめる

(5)　「振り返り学活」の実施

「振り返り学活」とは，生徒会活動の年間計画に位置付けられた話合い活動であるが，「こまちタイム（昼自学の時間）」や短学活を活用して学級で行う話合い活動を指す。

生徒会から出された案件や学校行事等については「こまちタイム」で振り返りを行う。この話合いを通して，一つの案件に対して全校生徒が課題意識をもち参加することになる。



「学級かわら版」掲示コーナー

各学級の「振り返り学活」で話し合われた内容は，各学年廊下に設けられた掲示コーナー「学級かわら版」に掲示され，学年間で共有できる工夫を行った。学年が上がるにつれ，出された意見や話合いの内容，まとめ方に工夫や深まりが見られ，上学年が下学年の手本となっている。

(6)　異年齢集団活動の充実

本校では，従来から「縦割り」のよさを生かした学校行事や異年齢集団活動が行われてきた。それらを踏まえ，上級生が各行事の企画運営や実践にリーダーシップを発揮するとともに，上級生が下級生に範を示したりする場面を意図的に設定した。また，自主性や主

体性を伸ばすために，できるだけ多くの生徒が活躍する場の設定を工夫した。その際，生徒会の各種委員会をはじめ，学年委員会や部活動主将会，各種行事の実行委員や日常活動のリーダーなどに働きかけ，生徒一人一人の主体性や個性が発揮されるように配慮した。

学校生活の様々な場面でリーダーを経験することは，リーダーを支える立場としての個々の意識の向上を促す。集団の中での自己の生かし方や自己有用感を強く意識するとともに，よりよい関わり方を体験的に学び，望ましい人間関係を築く土台となっている。

縦割り活動の体育祭では，練習期間に上級生が下級生に各競技のコツを伝授したりする。

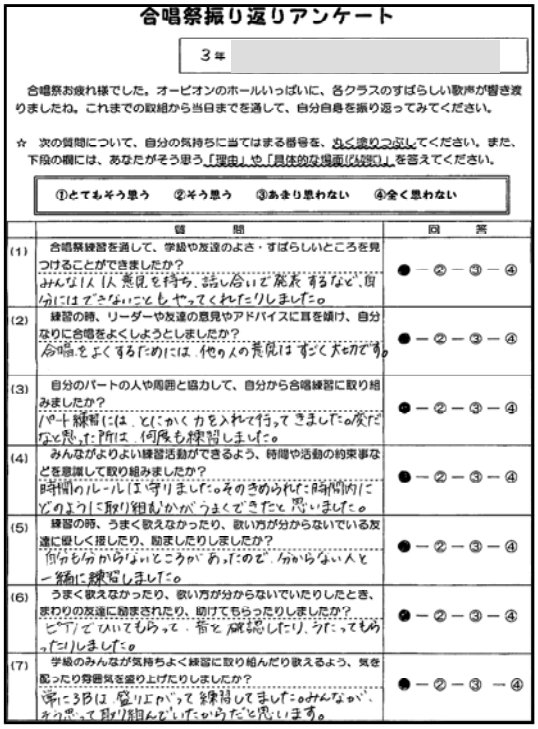
生徒会委員会の話合いでは，学年ごとではなく，縦割りで話し合う。

郡市大会等の激励会では，始めと終わりに，各部の主将が全校生徒にお礼を述べる。

(7) 社会性の変容をみる「振り返りアンケート」

３学期制の本校では，集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度や主体性の変容を把握するために，毎学期末に「生活振り返りアンケート」，学校行事（体育祭・合唱祭・学校祭）実施後に「行事振り返りアンケート」を実施した。

質問項目は，生徒個々の意識の変容や学年集団としての変容を分析し，事後指導に生かすために項目の内容を統一した。また，それぞれの項目には，数値に表れない「そう思った理由」や「具体的な場面」を記述する欄を設けており，生徒への個別の指導に役立てた。また，グラフ化したアンケート集計結果を基に学年部会を実施し，生徒個々や学年・学級集団の変容の見取りと今後の手立てや指導方針について確認し指導に当たるように努めた。



合唱祭振り返りアンケート

３年

合唱祭お疲れ様でした。オーピオンのホールいっぱいに、各クラスのすばらしい歌声が響き渡りましたね。これまでの取組から当日までを通して、自分自身を振り返ってみてください。

☆ 次の質問について、自分の気持ちに当てはまる番号を、丸く塗りつぶしてください。また、下段の欄には、あなたがそう思う「理由」や「具体的な場面(状況)」を答えてください。

①とてもそう思う　②そう思う　③あまり思わない　④全く思わない

	質問	回答
(1)	合唱祭練習を通して、学級や友達のよさ・すばらしいところを見つけることができましたか？ みんなに「人意見を持ち、話し合いで発表するなど、自分にはできないことも やってくれたりしました。	●－②－③－④
(2)	練習の時、リーダーや友達の意見やアドバイスに耳を傾け、自分なりに合唱をよくしようとしましたか？ 合唱をよくするためには 他の人の意見は すごく大切です。	●－②－③－④
(3)	自分のパートの人や周囲と協力して、自分から合唱練習に取り組みましたか？ パート練習には とにかく力を入れて行ってきました。○○だなと思った所は 何度も練習しました。	●－②－③－④
(4)	みんながよりよい練習活動ができるよう、時間や活動の約束事などを意識して取り組みましたか？ 時間のルールは 守りました。そのきめられた時間内にどのように取り組むかが うまくできたと思いました。	●－②－③－④
(5)	練習の時、うまく歌えなかったり、歌い方が分からないでいる友達に優しく接したり、励ましたりしましたか？ 自分も分からないところが あったので 分からない人と一緒に練習しました。	●－②－③－④
(6)	うまく歌えなかったり、歌い方が分からないでいたりしたとき、まわりの友達に励まされたり、助けてもらったりしましたか？ ピアノで ひいてもらって 音と確認したり 歌ってもらったりしました。	●－②－③－④
(7)	学級のみんなが気持ちよく練習に取り組んだり歌えるよう、気を配ったり雰囲気を盛り上げたりしましたか？ 常に3年は 盛り上がって練習してました。みんなが、そう思って取り組んでいたからだと思います。	●－②－③－④

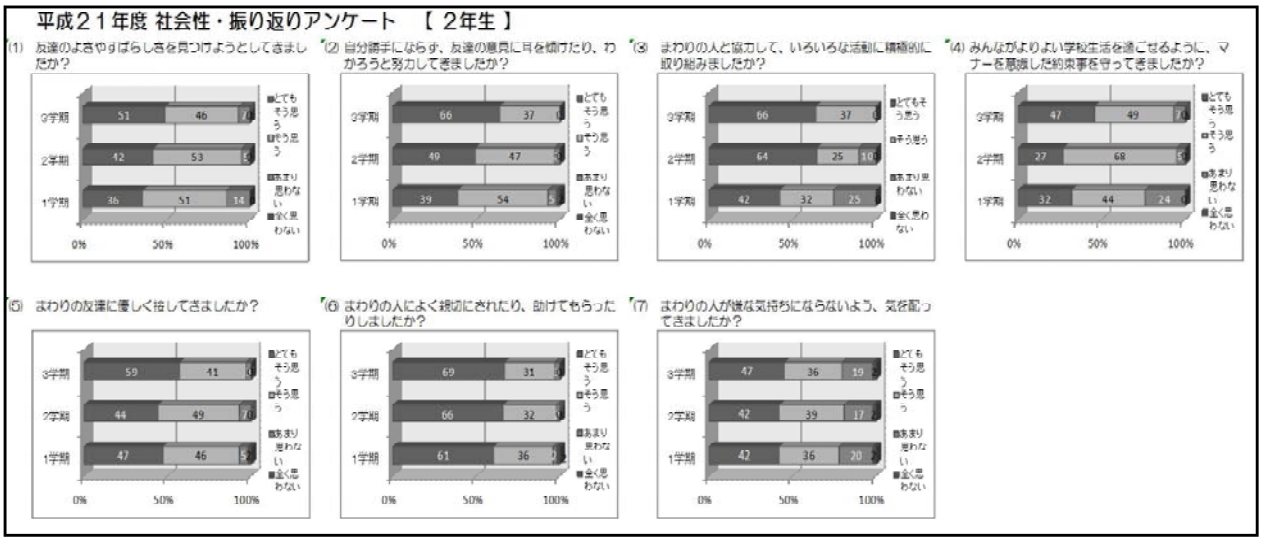
研究の２年目は，学級活動の話合いにおいて蓄積したデータの活用を図り，次のような実践を行った。

○１学期末のアンケート結果から，２学期の学級の課題や改善すべきことについて考える。

○昨年の合唱祭のアンケート結果を踏まえ，今年の合唱祭の目標と練習方法を考える。

○１学期に行われた体育祭のアンケート結果から行事への取組を振り返り，９月の合唱祭にむけた改善策を探す。

○先輩達のアンケート結果から，自分達のよさや克服するべき課題を考え，改善点と具体策を考える。



3　研究の成果と課題

(1) 成　果

① 生徒の実態から「各学年の目指す生徒像」を設定したことにより，３年間を見通した系統性や一貫性のある指導が可能となった。また，話合い活動や日常の教育活動において，生徒のよりよい関わり合いの姿を教職員がイメージしやすくなった。

② 新学習指導要領の改訂の趣旨を理解することから研究を始めたことで，全教職員の学級活動の時間に対する理解が深まり，授業改善がなされた。特に，内容(１)と内容(２)(３)の話合い活動における指導過程とその支援や手立てについて，見直すことができた。

③ 話合い活動の充実を図り，話合いの質の向上と形態の工夫に努めてきた結果，自発的で自治的な話合い活動が見られるようになり，集団としての高まりと生徒個々の意識の変容が感じられるようになった。併せて，日常活動においても自発的，自治的な取組が見られるようになった。

④ 振り返りアンケートの実施により，生徒個々や学年・学級集団の把握と変容を客観的に捉えることができるようになった。

また，アンケート結果を教師が分析するだけでなく，学級活動にデータを生かすことで，生徒自身が当事者としての意識をもち，話合いに意欲的に参加するようになった。

(2) 課　題

① 特別活動の実践を通して，集団としての自発的，自治的な実践が数多く見られるようになってきた。しかし，その中で集団に埋没してしまいがちな生徒に対して，一人一人に確かな主体性，よりよい人間関係を築く力を付けさせていきたい。

② 話合いを深め，実践意欲の向上につなげるための手立てについて，今後も授業実践を積み重ね，研究を深めていきたい。

③ 生徒の客観的評価能力は育ってきているが，個々の自己評価能力にはまだ差があるため，アンケート調査等の分析やデータ活用の際には留意する必要がある。引き続き，生徒の自己評価能力の育成に努めたい。

④ 新学習指導要領全面実施に合わせて新しくなる学習評価については，指導と評価の一体化について今後も研修していかなければならない。

平成２２年度研究成果報告書≪教育課程≫

ふりがな	はしましりつちゅうおうちゅうがっこう
学校名	羽島市立中央中学校

校 長 名：二村　一洋

所 在 地：岐阜県羽島市竹鼻町飯柄 505

電話番号：058 － 391-6180

新学習指導要領の趣旨を具体化するための指導方法等の工夫改善に関する研究	
研究対象教科等	特別活動

≪研究主題≫

よりよい人間関係をはぐくみ，共感と和らぎのある学習集団づくりを目指す特別活動の推進

【研究の要点】

1　主題設定の理由

「常に質の高いものを求めたい。」という気風と，「自分の考えを分かって欲しい。」「何とかして，相手の考えを理解したい。」という願いに基づいた仲間との対話を通して，互いの意見の違いを認め合い，さらによりよいものを創り上げようとする人間関係や自治的能力を育てるとともに，その中で自分も生かされている実感がもてる「共感と和らぎのある学習集団づくり」を目指す。これを具現するために特に，学級活動と生徒会活動の望ましい指導の在り方を明確にする。

2　研究の重点及び，具体的な取組

⑴よりよい人間関係をはぐくむ学級づくりと環境づくり

①朝の会，学級活動，授業，帰りの会等の在り方

・朝の会では，一日の目標や重点活動を見通し(方向付け)，授業や掃除等の活動において，生徒の動きを適切に指導した。帰りの会では，活動中の動きや姿を振り返った。動きや姿の背景にある思い（心）にも目を向けさせ，結果だけでなく過程も大切にして評価した(価値付け)。振り返りを通して，次の活動に向けた意欲を高めたり，意味付けをしたりした(価値付け)。

②心を育てる学習環境づくり

・「環境が人を育てる」という考えに基づき，生活環境を整えた。仲間のよさやそのねうちを見付け合う掲示，集団への所属感をもたせるための学級組織図や班活動の掲示，学級目標に対する各学期の個人の目標の掲示等を位置付けた。また，学校行事や日常活動の歩みを価値付けた。

⑵生徒の気付きや感動を生み出す指導計画の工夫

①学級づくりと生徒会活動の見通し

・1年間を見通し，各活動に取り組む生徒の意識が連続するよう生徒会活動，学校行事，学級活動とを関わらせ，生徒の自治的な活動となるよう指導計画を工夫した。

②生徒評価による活動の改善

・評価の観点を「自分の役割を果たすこと」，「班全員で協力して動くこと」の2点とし，（○）や（×）だけの評価ではなく，価値のある具体的な姿や思いをとらえ評価し，仲間の思いに応えようとする動きを生み出すようにした。

・生徒会活動として議員のコメントを掲示したり，価値の高い仲間の姿を放送したりして，価値のある仲間の姿を全校に広めた。

③自治的な活動を目指す生徒会全校集会

・生徒会全校集会を「知るための場」「交流して決定する場」として位置付け，リーダーたちの報告を聞くだけでなく，感想や思いを話し合う場として重視し，話合い活動を積極的に行った

⑶共感と和らぎのある学習指導の工夫

①互いに学び合い，質の高いものを生み出す「話合い活動」

・「話合い活動」の目指す姿は，一人一人が課題に真剣に向き合い，自分の意見を表出し，互いの意見の相違点と類似点を確認し【共感】，さらによりよいものを創り出すこと【和らぎ】であるととらえ，全教職員で共通理解して，指導した。

3　成果と課題

①全校体制で学級づくりをし，生徒のものの見方や考え方を育て，学習環境づくりをしたことで，仲間とかかわり合い，支え合う関係づくりができた。

②生徒会活動と学級づくりの関わりを明確にした指導計画や学級経営案を作成し，実践交流をしたことで，教師は見通しをもった指導ができるようになった。また，生徒は願いを強くもって問題やよさに気付き，感動を味わいながら活動することができた。

③話合い活動では，仲間との意見（見方や考え方）の違いを聞き分けたり，歩み寄ってよりよい解決を見出したりする「共感と和らぎ」のある姿が見られた。

④人の見方や考え方には違いがあることを理解し，それぞれのよさを認め合い，互いに学び合い新たな発見ができるような，よりよい人間関係づくりの指導を継続する必要がある。

Ⅰ　研究指定校の概要

1　学校・地域の特色及び実態

生徒数約420人の中規模校,一小一中のため,義務教育9年間で人間関係が固定化しやすい地域的な特質がある。生徒会活動や地域のボランティア活動等，人のために何かに取り組むことや力を尽くすことに値打ちを感じる心豊かな生徒が多い。平成20・21年度全国学力・学習状況調査等の結果，主として「活用」に関する問題の学力分布は二極化の傾向を示している。「情報の中から必要な内容を選び，伝えたい事柄が明確に伝わるように表現する。」という問題に対して，継続して弱さが見られる。また，話合い活動では，意見を主張したり，論理的に説明したりするような，学び合い，伝え合おうとする意欲には，個人差が見られる。

2　学校の概要（平成 22 年 4 月 5 日現在）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	計
学級数	4	4	4				1	13
生徒数	128	155	137				2	422

教員数　２７　名

Ⅱ　研究の内容及び成果等

1　研究主題等

(1)　研究主題

よりよい人間関係をはぐくみ，共感と和らぎのある学習集団づくりを目指す特別活動の推進

(2)　研究主題設定の理由

生徒は，学校生活の諸活動の中で，他人と違う意見を主張したり，相手に対して粘り強く説得したりする姿がやや弱い。これは，自分の意見について，自信がもてないことや，発言に責任をもつことを避けたいという意識からである。

私たちは，生徒一人一人が活動に対する願いをもち，時には仲間とぶつかり合いながらも，かかわり合い，支え合いながら，熱意をもってより質の高い活動を創り上げる生徒に育ってほしいと願っている。具体的に言うならば,

「目標を達成するにはこの方がよい。如何にしても自分の考えを分かってほしい。」

「なぜ，こんな意見を言うのだろう。相手の考えや気持ちを理解したい。」

「なるほど，私の意見と違っているけれど，このような思いをもっていたから・・・な発言をしたのか。よく分かった。」等，授業や様々な活動において，逃げたり避けたりすることなく，自己のもっている能力を十分に発揮して正しく問題解決をする。また，自己の主張をするだけでなく，自他の主張を生かしながら，より高次の立場を発見したり，その方法を学んだりする。このように仲間との対話を通して，自分と仲間の意見の違いを認め合い，さらによりよいものを創り上げる。自他のかかわりの中でこそ，自分も生かされ，成長できるという「共感と和らぎのある学習集団」を目指したい。

私たちは，このような生徒たちがあふれる中央中学校を目指して,研究主題を設定した。

(3)　取組体制

企画指導委員会

教頭　教務　生徒指導主事　ＡＢ指導委員会委員長

指導委員会Ａ

生徒会	①各委員会の業務（単年度の委員会活動計画による。） ・生活：挨拶，昼休みの生活，時間やルールに関わる活動，部活動部長会 ・整美：掃除，掲示等に関わる活動 ・合唱：合唱(文化)の質的向上に関わる活動 ・健康：健康，運動，給食に関わる活動 ・図書：図書館経営及び読書活動に関わる活動 ・学習：学習指導と学習の質的向上に関わる活動 ②生徒会議会 ・懸案事項の審議　・ボランティア活動の推進

教 育 相 談	①不登校対策委員会の企画運営と体制づくり ・不登校生徒の個票の作成管理や対応対策 ・教育相談室運用 ②就学指導に関わる指導・記録保存 ③教員への研修と啓発 ④いじめ問題の予防

指導委員会Ｂ

学 習 指 導	①学業指導全般 ②道徳指導 ③読書指導　応募・表彰・顕彰 ④進路指導
学 級 づくり	①学級経営(学級活動・リーダー指導等)の流れと具体 ②学級掲示，校内掲示に関わる環境づくり ③給食や掃除の時間に関わる指導 ④合唱指導
生 活	①日常生活の約束と管理（きまり・時間） ②安全や管理に関わる活動と行事 ③クラブ，部活動指導

特設運営指導委員会

体 育 大 会	主：生徒会長 学級づくり長，副主任，議会＆生徒会各委員会担当，特別支援担当，体育科
合唱祭	主：学級づくり長 生徒会長，副主任，合唱指導委員会担当，特別支援担当，音楽科
式 典	主：教頭　教務，学年主任，特別支援担当

管理指導部　随時（教頭の指示）

生 徒 指導部	生徒指導主事　学年主任 ・問題行動といじめ問題の対応 ・外部機関や問題を抱える家庭との連携と調整
教務部	教務主任　事務　研究主任　諸係 ①教育課程 ②研究実践及び職員研修 ③教育事務　その他
校務部	教頭　校務主任　諸係 ①施設・備品 ②防災 ③給食　その他
涉外部	教頭　教務主任　諸係 ①教育機関との連携調整 ②ＰＴＡ・クラブ育成会 ③涉外地域連携全般　その他

研究推進委員会（研究推進委員は校長の指名）

①ブレーン研推（教頭・教務・研究主任・副研究主任）
②研究推進委員会（研究主任＋研究推進委員
必要時応じて＋教頭＋教務）
③研究・研修職員会（毎月）

(4) ２年間の主な取組

平 成 21 年 度	【４月】研究組織の立ち上げ 【５月】研究仮説と方向の検討 【６月】研究の方向の公表と協議 ・特別活動の全体計画及び各活動・学校行事等の年間指導計画の作成 【８月】夏休みの学び合いウイーク等の実施 【９月】以後，研究実践の継続 【10 月】「中央中学校公表会」にて研究経過の公表 【12 月】これまでの研究の見直し ・次年度の研究実践の内容と計画及び組織の検討 ・特別活動の全体計画及び各活動・学校行事等の年間指導計画の見直し，次年度の計画の作成 【２月】「中間まとめの会」にて研究成果の公表 【３月】研究のまとめ及び公表
平 成 22 年 度	【４月】研究組織，研究主題，研究仮説と方向の検討 ・学級経営案の作成及び見直し 【５月】研究の方向の公表と協議 ・研究論文，特別活動の全体計画及び各活動・学校行事等の年間指導計画等の作成と見直し ・第１回全校研究会の実施 【６月】校内の授業研究会等の実施 ・第２回全校研究会の実施 【７月】校内の授業研究会等の実施 ・第３回全校研究会の実施 【８月】理論研究会の実施，研究紀要のまとめ 【９月】校内の授業研究会等の実施 ・第４回全校研究会（各教科における話合い活動）以後，研究実践の継続 【11 月】教育課程研究指定校事業「中央中学校実践公表会」の開催

	【12月～】２年間の研究実践の内容と計画及び組織についての反省 ・特別活動の全体計画及び各活動・学校行事等の年間指導計画の見直し，次年度の計画の作成

２　研究内容及び具体的な研究活動

(1)　研究の重点

①　よりよい人間関係をはぐくむ学級づくりと環境づくり【生徒の意識を育てる学級づくり】

②　生徒の気付きや感動を生み出す指導計画の工夫

【学級活動と生徒会活動をつなぐ年間指導計画の作成】

③　共感と和らぎのある学習指導の工夫

【互いに学び合い，質の高いものを生み出す「話合い活動」の展開】

(2) 具体的な取組

①　よりよい人間関係をはぐくむ学級づくりと環境づくり【生徒の意識を育てる学級づくり】

ア　朝の会，学級活動，授業，帰りの会等の在り方や，相互のつながりの明確化

主な一日の活動である「朝の会」と「授業」「給食」「掃除」「休み時間の班活動」等と「帰りの会」や「放課後の諸活動」の三つのつながりを明確にして活動した。

・「朝の会」で，一日の目標や重点になる活動を見通す。【位置付け】
・授業や掃除，休み時間の活動等では，生徒の動きをつかみ，適切に指導や援助をする。
・「帰りの会」では，活動中の動きや姿を見つめ直す。その時，活動における動きや姿だけでなく，その動きや姿の背景にある思い(心)にも目を向けさせる。また，結果だけでなく過程を大切にした評価を心がける。【価値付け】
・こうした反省を通して，次の活動に向けた意識付けをする。【方向付け】

朝の会，授業や諸活動等，帰りの会を通して，生徒の姿や思いに目を向け，生徒同士で思いを共有し合うことは相手を理解する大切な一歩となる。教師は，生徒の人間関係づくりのポイントを見極め，適切にアドバイスするとともに，繰り返し指導したり，願いをもって厳しく指導したりして，よりよい仲間関係が築けるようにする。

イ　ものの見方や考え方を育てる学級の高まりや凝集度の段階

生徒が個人としての願いや学級集団としての目標をもち，そこに向かって努力することで，一人一人のよさを発揮するような学級づくりをしたいと考えた。

そのためには，学級づくりの現状の位置(実態把握)，目指す目標と段階(目標)，高次の段階へ昇るための方法(指導方法)を明確にしなければならない。そこで，学級づくりにおける発達の段階を，学級活動や年間行事から示した。次に，生徒個人の成長を「活動における生徒理解(実態の分析と目指す方向)」としてチャート図にした。「本気がかっこいい(自信，達成感)」「人のために尽くす(人間関係づくり)」「感謝・大好き(成就感，満足感)」「話合い活動」の４観点を，各ベクトルとして６段階で表した。

さらに，学級集団づくりを「生徒のものの見方や考え方を育てる学級の高まりや凝集度」として段階表にした。「仲間づくり」「自主的，実践的な高まり」「話合い活動」の３観点から６段階で表した。これらの観点は，中央中の学級づくりのキーワード「中魂」から考えた。

ウ　心を育てる学習環境づくり

「環境が人をつくる」といわれる。生徒は，美しく機能的に整えられた環境の中で過ごすことで，落ち着いて学習し，安心して生活することができる。このような学習環境を仲間とともに創り上げることは，仲間を大切にして心を通わせることにつながる。

そこで，学級や学年の掲示づくりを大切にして学級づくりを進めた。学級掲示は，班や学級全員で活動し，困難に立ち向かう

姿やその背景にある思い，乗り越えた事実，生み出された意識等を示すことに重点を置いた。また，集団への所属感を高めるために学級組織図や班活動，学級目標に対する各学期の目標，年間の行事を具体的に示し，今後の見通しをもたせるようにした。そして，日常活動や学校行事の歩みをタイムリーに掲示していくことで，集団や個の成長を価値付けた。

学年掲示では，学級の枠を越えた「よさ見付け」を位置付けた。「よさ」として紹介したい仲間の氏名とともに，紹介したいと思った理由を具体的に書くようにした。更に，教師がその紙を紹介された仲間に見せ，どんな気持ちで活動に取り組んでいるのかを書くようにした。紹介された生徒は，仲間に認められたうれしさを感じつつ，自分の行動や気持ちの価値を再確認することができた。また，紹介した生徒は，仲間のよさを見付け，その気持ちを想像する姿勢をもちつつ，どんな姿や思いに価値があるのかを再確認することができた。

Ｙさんは，授業中に「全員挙手」と呼びかけてます。しかも，ただ呼びかけるのではなく，手本の姿となって教えるなど，工夫して全員挙手を目指しています。この姿を見て，最近，僕をはじめとする学級全体の挙手回数が増えました。Ｙさんは，学習委員としての責任を果たしていると思います。その姿から，学習委員の役割に注いでいる情熱と，学級をよくしたいという強い思いが感じられます。その姿はかっこいいです。　【紹介した生徒の記述内容】
僕は，学習委員として１年２組を高めていくために「全員挙手」や「ピン挙手」等の呼びかけをしています。その呼びかけに１年２組のみんなが応えてくれるので，全員挙手がたくさんできるようになり，一層考えが深まっています。更に上を目指したいので，僕自身，粘り強く呼びかけ，更に１年２組を高めたいです。　【紹介されたＹさんの思い】

② 生徒の気付きや感動を生み出す指導計画の工夫

【学級活動と生徒会活動をつなぐ年間指導計画の作成】

生徒の気付きや感動を生み出す特別活動を創り上げるためには，活動の見通しをもつこと，学級活動や生徒会活動の「組織的な動き」をつくりだすこと，生徒評価による活動の改善をすることが必要であると考えた。

学校行事と生徒会活動や学級活動をかかわらせることで，１年間を通して意識の連続性を図るとともに，どこで，どんな力を付けたいのか，どのように指導すればより効果的であるのか，どのように評価するのか等を明確にして指導することができる。

ア　学級づくりと生徒会活動の見通し

４月，学級目標を決定し，その目標達成のための前期の学級組織づくりをする。学級組織の議員，班活動と生徒会委員会活動はつながっており，この組織編成後，すぐに活動させる。「鉄は熱いうちに打て」と言われるように，活動意欲の高い時に公約した内容を確実にやりきり自信をもたせる。

５月の修学旅行や合宿を通して，学級の規範づくりや活動目標等，学級が目指す具体的な目標が見えてくる。「分かることと，身に付けることは違う。」３年生の修学旅行の解散式で，学級委員が語った言葉に象徴される。

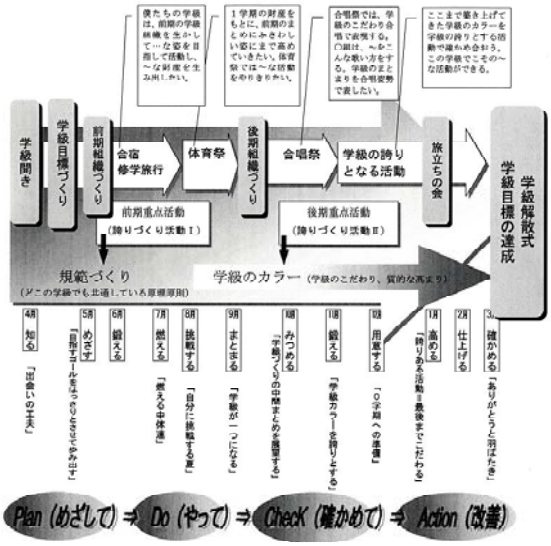
この課題を解決するのが，６月の「誇りづくり活動Ⅰ」になる。これは，前期生徒会活動の重点活動として全校一斉に行い，生徒会と学級組織のかかわりや学級の組織的な動きを学ぶ場である。「なすことによって学ぶ」と言われる特別活動において，失敗や仲間関係のトラブル，助け合い，達成感等のさまざまな場を経験して，乗り越える中で，仲間と共に創り上げることの大切さに気付かせる。

前期の学級づくりと生徒会活動の集大成として９月の「体育祭」を位置付け，学級活動や生徒会活動の組織的な動きを確立する。

後期に入る10月の「誇りづくり活動Ⅱ」では，前期の活動で創り上げた学級の自治力を発揮して活動を発展させる。「我が学級だからこそ，ここまでやる。さらによいものを創り上げる。」等，学級の自信と全員が徹底する活動をつくる。この徹する姿が，やがて「学級のカラー」となる。

11月の「合唱祭」は，学級のカラーを全校へ表現する場である。合唱活動を通して，自分や学級のカラーを自信をもって表現し，誇りをもつようにさせる。

このように，意図的に活動を計画し，より質の高い活動をさせることで，学級解散式に向けて学級目標の達成を目指すのが後期である。



【中央中における１年間を見通した主な特別活動のかかわり】

イ　生徒評価による活動の改善

生徒会活動における評価は，かつてはできたら(○) できなかったら(×) であった。しかし(×) の中にも素晴らしい姿があり，その姿に気付いてこそ仲間の思いに応えようとする動きにつながると考え(○)や(×)だけではなく，価値のある具体的な姿や思いを価値付けるようにした。

班長は班員の姿を，学級委員や議員は学級全体の姿を評価するようにした。評価の観点は「自分の役割を果たすこと」と「班全員で協力して動くこと」とした。学級の最小集団である班単位で役割を担い，仲間と助け合って活動する機会や，相互評価により気付きや感動を共有する機会をつくった。これにより，班のまとまりができただけでなく，担当以外の仲間も応えて働きかけるような姿が見られるようになった。このような関わりによる価値の広がりこそが，学級の高まりであることを生徒たちは自覚した。

また，議員のコメントを学年掲示にしたり，学級の自慢の仲間を生徒会広報活動で放送したりして，価値のある仲間の姿を全校に広めた。

僕は掃除が面倒でずっとさぼっていました。でもＢさんは，僕が掃除場所から逃げると，いつも探しに来てくれました。最近，僕は，掃除を時間一杯できるようになりました。　【Ａさん】
僕も掃除は嫌だけど，学級みんなで○を付けたいので頑張りました。Ａさんは集配の仕事や授業の挙手等を頑張っているので，同じ班員として掃除もできるようになってほしいし，全員で○を付けたいので声をかけ続けました。　【Ｂさん】

生徒会全校集会では，「誰のおかげで変わることができたのか。」「なぜ，仲間が成長するまで声をかけ続けたのか。」と，生徒本人が取り組む中での事実や思いを語る機会をつくった。これにより，学級に位置付くことができなかった生徒が，活動に対する自信をもち，さらに全校の前で仲間への感謝の思いを語る場面が見られた。

ウ　自治的な活動を目指す生徒会全校集会

生徒会活動では，生徒会全校集会や生徒議会を，生徒一人一人がよりよい学校生活づくりに参画するための大切な場として位置付けている。この生徒会全校集会では，「知るための場」「交流して決定する場」

の二種類の場を設定した。特に，リーダーたちの報告を聞くだけでなく，感想や思いを話す場を大切にした。

４月の生徒会全校集会では，生徒会執行部がそれぞれの活動内容を紹介し，大切にしたい思いや仲間の姿を語った。生徒会活動内容を報告するだけでなく，リーダーとしての模範的な姿を全校に示すことができた。

６月の全校生徒会議会では，全学級が重点活動の反省を発表し，意見交流をした。生徒たちは，学級が違えば成果も課題も違うことや，自分は満足していたけれど，さらに質の高いものを求めている学級があることに気付いた。そして，自分の学級にも取り入れようと感想を述べる姿が見られた。他学年とのかかわりをもつことの大切さに気付いた場面であった。

７月の体育祭に向けた話合い活動では，「大縄跳び競技を，団の合計で競うようにしたい。」という提案がなされた。これに対して，先輩から教えてほしいと考える１年生，最後の体育祭を学級としての結果を優先したいと考える３年生の意見が対立した。

話合い活動の核心部は，自分とは違った立場の仲間が，他学年や他学級にいることに気付き，どのように折り合いをつけて決定していくことが最良の方法かを全校で考える場面であった。

話し合いが進むにつれて，自分の意見を主張するだけの内容から，徐々に他学年の立場や違う意見の考えを意識したものへと変わっていった。やがて，互いの意見を大切にする折衷案を提案する生徒が現れた。

私たち３年生は最後の体育祭なので，自分の学級の結果を残したい。でも，1年生が教えてほしいという気持ちも分かります。結果にかかわらず，教えに行きたいと思うので，大丈夫です。

【他学年の生徒を意識した３年Ｄさんの意見】

執行部の意見も反対する人の意見も分かるので，団も学級も両方とも表彰することにすれば，学級も全校も高まるのではないでしょうか。

【折衷案を提案した２年Ｅさんの意見】

この話合い活動を通して，生徒自らの問題を，生徒自らの手で解決しようとする自治的な活動の場とすることができた。

③　共感と和らぎのある学習指導の工夫

【互いに学び合い，質の高いものを生み出す「話合い活動」の展開】

学級活動や各教科の授業等の「話合い活動」において目指す生徒の姿は，一人一人が課題に真剣に向き合い，自分の意見を表出し，互いの意見の相違点と類似点を確認し【共感】，さらによりよいものを創り出すこと【和らぎ】である。

学級活動の話合い活動では，司会者が「意見がないようなので，採決を行います。」と話し合いが深まらないまま進めてしまうことがある。埋もれている生徒の考えを引き出し，話し合いを深めるために働きかけることが教師の役割である。「言い足りな

生活場面を題材にした「話合い活動」のよさ	・互いの顔と顔を向き合わせ、言葉と言葉を交わし合う。感情や気持ちのこもるコミュニケーションが成立しやすい。 ・意見の「違い」が必然的に生まれる。違いを乗り越えて合意点を探るという場面を提供できる。 ・力関係や好悪関係を含む人間関係、利害関係、当事者意識の違い、経験や価値観や生き方の違い等、生の現実が反映する。 ・「話合い方」を学ぶだけでなく、知識・技能、知恵も、あらゆるものを総動員する実践的、総合的な訓練となる。
前半【話す・聞く、分かり合う】	・個々の生徒が、思いや願いを「話す。」 ・異なる意見が並び、ぶつかる。 （※このとき、相手を理解する「聞く」ができれば、説得したり話し合いを進めたりすることに有効であることを体得させたい。） ・異なる意見を大切にしつつ、何とか合意点を探る。 ・「分かり合う」ことが求められるが、現実の壁は厚く、合意点はなかなか見付からない。
後半【折り合いをつける、すり合わせる】	・合意点を探る努力を続けさせる。 ・意見の絞り込みをする。 ・互いの意見を「すり合わせる」ことを求める。 ・「折り合いをつける」生徒が表れる。 （※話合いの核心部） ・「折り合い」がつけば、納得ある合意に至る。 ・「折り合い」がつかなければ多数決。 （※生徒は、「自分にも相手にもよい」方法を探る。）

【話し合い活動の段階】

いことはないのか。」「Ａさんの意見に対して，もう少し話合う必要があるのではないか。」「全員が挙手しているわけではないが，迷っているのではないか。」「Ｂさん，どうですか。」等，生徒の考えを引き出すとともに，生徒が立ち止まり，考え込み，そして乗り越えさせるための「深めの発問」をすることが必要である。また，「生徒の心をゆさぶる，感動させる，価値をつかませる，知識として教えること」が教師の役割であり，指導の質と効果的なタイミングが要求される。

例えば，学級活動「学級目標を決めよう」では，教師が自分の恩師から贈られた花を提示し，込められた思いを切々と語ることで，生徒に感動を与え「自分たちも頑張ろう」という思いにさせることができた。「体育大会に向け，思いを固める話合い活動」では，修学旅行で自分勝手な行動をして反省したＣさんに意図的な指名をすることで「仲間を責めない集団になりたい。」という発言を導いた。そして仲間と支え合いながら全員で動くことに徹するという意志統一につなげることができた。

各教科の授業では，答えを発言するだけでなく，考えた道筋や根拠を問い返し，仲間の頑張りに目を向けて価値付けることを継続している。

(3)　考察及び成果と課題

・人の心は，人とふれあい，人の心の温かさにふれたりすることで育っていくのだと考える。よりよい人間関係をはぐくむためには，生徒同士が互いの動きや姿に目を向け，その背景にある思いに気付き，共感し，感動していく日常の営みが大切である。そのためには，まず，教師自身が生徒一人一人かけがえのない存在であることを行動で示す。そして，生徒に対して適切なアドバイス，繰り返しの指導，願いをもった厳しい指導を行う必要がある。それが，よりよい人間関係づくりへとつながっていく。

・「自分は一人ではない。大切な学級の，学校の仲間である」ということを目に見える掲示物で示していくことも大切である。

・共感と和らぎのある学習集団づくり進めるためには，よりよい人間関係を築くことが大前提である。そのうえに，学習姿勢や学習規律，話す力，聞く力，話し合う力を育てることや，話し合う必然性のある議題，話し合いを深める教師の出場を工夫することが大切である。

３　研究の成果と課題

・全校体制で学級づくりの共通理解・共通行動をし，生徒のものの見方や考え方を育て，心を育てる学習環境づくりをしたことで，進んで仲間とかかわり合い，支え合う仲間づくりが見られるようになった。

・生徒会活動と学級づくりのかかわりを明確にした指導計画や学級経営案を作成し，実践交流をしたことで，見通しをもった指導ができるようになった。また，生徒は願いを強くもって問題やよさに気付き，感動を味わいながら活動することができるようになった。

・話合い活動の基本的な方法を学ぶことで，仲間との意見（見方や考え方）の違いを聞き分けて主張したり，仲間の意見に歩み寄ってよりよい解決を見出したりするなど，「共感と和らぎのある」姿が見られるようになった。

・今後，人の見方や考え方には違いがあり，それぞれの考えのよさを認め合いながら，互いに学び合い，新たな発見ができるような，よりよい人間関係づくりのための指導を継続する必要がある。